

京都市立醍醐中学校

令和4年度 学校教育目標・生徒像・教職員像・学校像 及び本年度の学校経営方針・重点課題

I. 学校教育目標

**「伝統と文化を受け継ぎ、地域に貢献できる
人材の基礎となる資質や能力を育成する」**

2. 目指す生徒像

- ① 自主自律の精神や広い視野、豊かな感性をもち、自らの未来を創造できる生徒
- ② 探究心をもち、多角的に思考・判断し、自分の考えをわかりやすく表現できる生徒
- ③ 目標を達成するために、具体的な道筋を考え行動できる生徒
- ④ 規範意識を高め、自己の属する集団での役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める生徒

3. 目指す教職員像

- ① 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」が実感できる授業づくりに努める教師
- ② 職務を全うし、プロ意識をもつ教職員
- ③ ワーク・ライフ・バランスを実現する教職員

4. 目指す学校像

- ① 生徒を第一に考え、生徒を伸ばす学校
- ② 居場所があって、安心して通える学校
- ③ 地域に開かれ、地域に信頼される学校

5. 学校経営方針

(1) 地域の文化財を活用した「伝統文化教育」や注①本校の伝統的な取組を、教科横断的な視点でカリキュラムを組織的に再編成し、家庭・地域とともに「学校教育目標」の達成を目指す。

特に、「総合的な学習の時間」を再編し、伝統文化教育との連携を強化する。

注①…MDR活動（盲導犬育成の取組）、防災学習（東日本大震災の被災地との交流や支援物資の販売利益の寄贈、防災に関する学習）、醍醐寺との連携（各学年での鑑賞授業の実施）

(2) 学習指導要領による学校全体での授業改善の視点や新しい評価のあり方の視点から、校内研修・研究協議を充実させ、生徒が主体的、対話的に学ぶ授業を進めていくことができるよう指導力を高める。また、ICT機器を有機的に活用して、GIGA構想を着実に前進させる。

(3) OJTを有効に機能させて、管理職やベテラン教職員が豊富な経験に基づく知識や技能を若年教職員に伝えていく。

(4) 醍醐中学校区を基盤に、学力向上や生徒指導、支援の必要な生徒に関する実態や課題を踏まえて、小中一貫9年間を見通した学習指導・生徒指導を推進する。

(5) 学校運営協議会やPTAとの連携を進め、「開かれた学校づくり」を着実に推進していく中で、学校・家庭・地域との相互の信頼関係を強化していく。

6. 重点課題

<知（確かな学力）>

- ① 課題の発見・解決に向けた、主体的・対話的な学びや探究活動を重視した授業づくりに努める。
- ② 授業と連動した課題の内容と提示方法に工夫・改善を行い、家庭での自学自習の習慣の定着を図る。

<徳（豊かな心）>

- ① 教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。特に、「考え、議論する道徳」を実践する。
- ② 「あいさつ」の意義を理解させ、自分から進んで「あいさつ」のできる生徒を育てる。
- ③ MDR活動や防災学習などの教育活動を活かして、生徒の「自己有用感」を育てる。

<体（健やかな体）>

- ① 「部活動ガイドライン」に基づき、適切な休養日や活動時間を設けて安全で充実した部活動指導を実践する。
- ② 教職員間及びSCとの「報・連・相」を大切にし、「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」に努める。